

# これからの産学官連携コーディネーター育成について(構想案)

資料5  
 科学技術・学術審議会産業連携・地域支援部会  
 産学官連携推進委員会(第11回)  
 H24.7.27

## 背景

- これまでの各種施策の結果、大学においてコーディネート活動の必要性は浸透し、定着しつつあるが、大学のコーディネーターには即戦力への期待等から企業OB等シニア層が多く、業務運営もCD本人のネットワーク、経験値に依存する領域が大きい。  
 大学におけるコーディネート人材育成は十分とは言えず、中長期的に活躍する若手コーディネーターの育成が不可欠。 ➡ **暗黙知の継承**
- また、イノベーション創出の高度化のためには、これまでの知見等の継承とともに、関係機関からの情報収集・分析等を通じたニーズ・シーズ探索力の強化等、若手コーディネーターによるコーディネート活動の高度化を図る必要。 ➡ **新価値創造力強化**
- 更に、コーディネート活動による産学官連携の進展を目指すためには、コーディネーターが全体として専門性を高めステップアップしていく仕組みの確立など、コーディネート人材の育成・機能強化のための実効性のある取組(人材育成ツールの標準化等)が必要。 ➡ **形式知の標準化・継承**

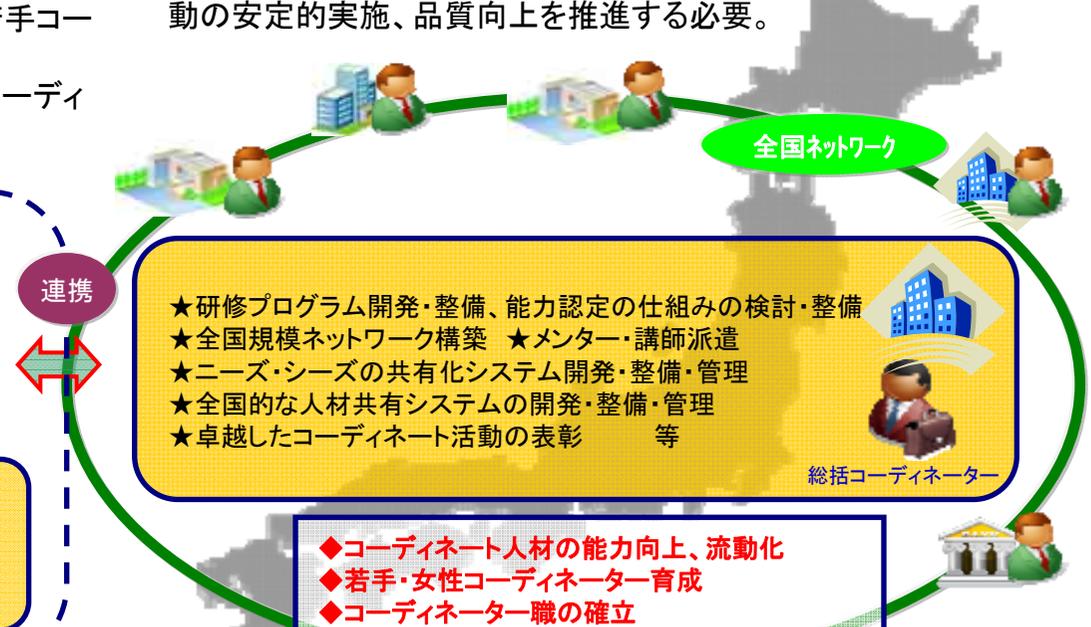
## 育成 → 暗黙知の継承 + 新価値創造力強化

- 今後の大学における産学官連携活動、イノベーション創出を支えるため、一定期間で優秀なシニア層の具体的なノウハウやスキルを、シニアと若手コーディネーターの協働等により継承。
- イノベーション創出高度化のため、ニーズ・シーズ探索力の強化等コーディネート活動の高度化を図る必要。



## 育成 → 形式知の標準化・継承

- コーディネート人材育成ツールの標準化等を進め、コーディネート活動の安定的実施、品質向上を推進する必要。



イノベーション創出の高度化